

マレーシア史上もっとも注目された選挙 ——何が変わったのか？

中村 正志 JETROアジア経済研究所

データの入力をしていたら時間ばかりが経って、あまりたいした分析はできていません。投票日の前に「何が変わったのか」というサブタイトルをつけてみたものの、結果的には、どちらが勝ったか、どのくらい勝ったかという点では、改選前とほとんど変わらない結果でした。

2013年連邦議会下院選挙の

政党別獲得議席数・議席占有率・得票率

投票率は、私が計算したデータによると84.84%です。どうしてこのようなことが起こるのかわかりませんが、公示の翌日に新聞で出た登録有権者の数字

と、いま選挙委員会の公式サイトに出ている数字とがかなり違います。選挙委員会のウェブサイトのデータを使って計算したら、こういう数字になりました。

選挙の直後からいろいろメディアで言われているとおり、BNがほぼ6割の議席をとった一方、得票率を見ると50%を割っています(資料17)。前回の選挙と比べると7議席の減ですが、実際には、解散までの間に5議席を失っていたので、結局は2議席を減らしただけです。それから、半島部は、山本博之さんのご指摘のとおり、前回選挙とまったく同じ80議席対85議席という結果になっています。

資料17 2013年マレーシア連邦議会下院選挙 政党別獲得議席数・議席占有率・得票率
(2013年5月5日投票、定数222、登録有権者数13,268,002人、投票率 84.84%¹⁾)

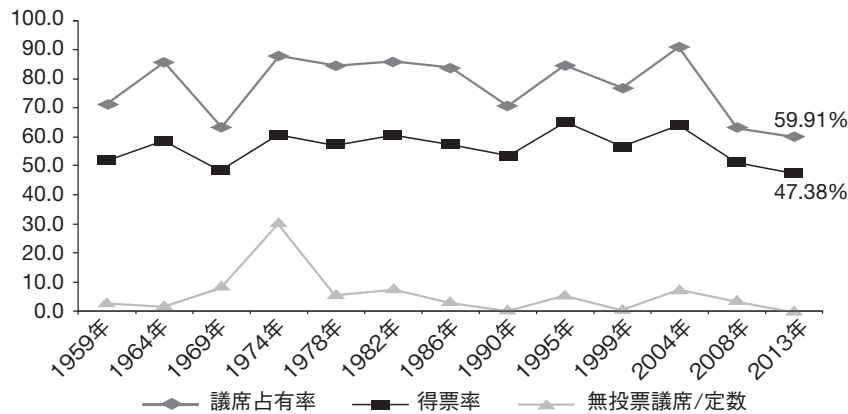
	解散時		2013年選挙			2008年選挙との差 ³⁾	
	議席数 ²⁾	議席数	候補者数	占有率	得票率	議席数	得票率 ⁴⁾
与党・国民戦線(BN)	135	133	221	59.91%	47.38%	-7	-4.00
統一マレー人国民組織(UMNO)	77	88	121	39.64%	29.32%	9	-0.67
マレーシア華人協会(MCA)	15	7	38	3.15%	8.17%	-8	-2.61
マレーシア・インド人会議(MIC)	4	4	9	1.80%	1.63%	1	-0.45
マレーシア人民運動(GERAKAN)	2	1	10	0.45%	2.37%	-1	0.07
人民進歩党(PPP)	0	0	1	0.00%	0.07%	0	-0.14
サバ統一党(PBS)	3	4	5	1.80%	0.68%	1	0.12
パソモモン他統一組織(UPKO) ⁵⁾	3	3	4	1.35%	0.60%	-1	-0.14
サバ人民統一党(PBR)	1	1	1	0.45%	0.09%	0	0.09
自民民主党(LDP)	1	0	1	0.00%	0.12%	-1	0.01
サラワク統一ブミトラ党(PBB)	14	14	14	6.31%	2.10%	0	0.45
サラワク統一人民党(SUPP)	5	1	7	0.45%	1.21%	-5	-0.29
サラワク人民党(PRS)	6	6	6	2.70%	0.54%	0	0.12
サラワク進歩民主党(SPDP)	4	4	4	1.80%	0.50%	0	-0.16
野党連合・人民連盟(PR)	76	89	223	40.09%	50.87%	7	3.44
民主行動党(DAP)	29	38	51	17.12%	15.71%	10	1.89
人民公正党(PKR)	24	30	99	13.51%	20.39%	-1	1.14
汎マレーシア・イスラーム党(PAS)	23	21	73	9.46%	14.78%	-2	0.42
その他の政党	2	0	56	0.00%	0.96%	0	0.60
無所属 ⁶⁾	9	0	79	0.00%	0.79%	0	-0.04
合計	222	222	579				

■ポイント……①国民戦線(BN)の議席占有率は過去最低を更新。ただし解散時から2議席減らしたのみ②BNの得票率が50%を割る③UMNO議席は増加(得票率は低下)④MCAとSUPPの退潮により、BNはブミトラ政連合の様相⑤PR3党の得票率が50.87%を記録⑥DAPが下院第2党に(1969年選挙以来)

■注……¹⁾党籍変更(離党)と連立離脱、ならびに6回の補欠選挙の結果をうけたもの²⁾2008年選挙の国民戦線の議席数・得票率にはサバ進歩党(SAPP)を含む³⁾単位はパーセント・ポイント⁴⁾投票率=(有効投票+無効票+回収されなかった投票用紙)/有権者数⁵⁾正式名称はパソモモン・カダザンドゥスン・ムルット統一組織

⁶⁾2008年選挙後に無所属になった9議員の所属元は、UMNO(1)、UPKO(1)、PKR(6)、PAS(1)

出所 選挙委員会特設サイト(<http://www.pru13.gov.my/>)、Election Commission Malaysia (ECM)、Report of the General Election Malaysia 2008, Kuala Lumpur: Percetakan Nasional Malaysia, 2010等をもとに作成。



資料18 与党連合(連盟党/国民戦線)の議席占有率と得票率の推移

■注……暴動で中断された1969年選挙についてはマレー半島部のみを対象とした。与党連合の名称は、1972年までが連盟党、1973年以降は国民戦線。

■出所……ECM [various years] をもとに作成。

資料19 登録有権者の多い選挙区(上位20)

順位	登録有権者数	勝者の得票数	区番	州	現職所属	当選者所属
1	144,159	69,849	P109	S'gore	PR-PKR	PR-PKR
2	133,139	79,238	P102	S'gore	PR-DAP	PR-DAP
3	128,543	66,268	P107	S'gore	PR-PKR	PR-PKR
4	127,347	64,127	P101	S'gore	PR-PAS	PR-PAS
5	123,290	54,827	P98	S'gore	PR-PKR	PR-PKR
6	107,010	62,938	P103	S'gore	PR-DAP	PR-DAP
7	106,726	54,284	P162	Johor	BN-MCA	PR-DAP
8	105,909	59,106	P111	S'gore	PR-PAS	PR-PAS
9	105,895	52,287	P97	S'gore	PR-PKR	PR-PKR
10	102,305	45,628	P128	Negri 9	PR-DAP	PR-DAP
11	101,236	56,790	P104	S'gore	PR-PKR	PR-PKR
12	101,041	43,834	P159	Johor	BN-UMNO	BN-UMNO
13	100,490	43,751	P161	Johor	BN-UMNO	BN-UMNO
14	99,957	49,009	P108	S'gore	PR-PAS	PR-PAS
15	99,438	46,167	P137	Malacca	BN-UMNO	PR-PKR
16	98,632	46,151	P19	Kelantan	PR-PAS	PR-PAS
17	97,092	47,558	P71	Perak	PR-PKR	PR-PKR
18	97,073	53,719	P110	S'gore	PR-DAP	PR-DAP
19	96,321	44,285	P160	Johor	BN-UMNO	BN-UMNO
20	95,328	42,870	P10	Kedah	PR-PKR	PR-PKR

資料20 登録有権者の多い選挙区(上位20)

順位	登録有権者数	勝者の得票数	区番	州	現職所属	当選者所属
203	26,477	14,983	P213	Sarawak	BN-PBB	BN-PBB
204	26,322	15,476	P204	Sarawak	BN-PBB	BN-PBB
205	26,195	13,446	P215	Sarawak	BN-PBB	BN-PBB
206	26,194	9,467	P182	Sabah	BN-PBRS	BN-PBRS
207	25,771	8,265	P192	Sarawak	BN-SPDP	BN-SPDP
208	25,461	12,040	P214	Sarawak	BN-PRS	BN-PRS
209	25,304	9,771	P181	Sabah	BN-UMNO	BN-UMNO
210	24,748	13,377	P187	Sabah	BN-UMNO	BN-UMNO
211	24,688	13,174	P183	Sabah	BN-UMNO	BN-UMNO
212	24,474	12,694	P166	Labuan	BN-UMNO	BN-UMNO
213	24,278	12,999	P221	Sarawak	BN-PBB	BN-PBB
214	22,522	9,891	P209	Sarawak	BN-PRS	BN-PRS
215	21,686	9,117	P216	Sarawak	BN-PRS	BN-PRS
216	19,839	13,277	P200	Sarawak	BN-PBB	BN-PBB
217	19,433	8,046	P210	Sarawak	BN-PRS	BN-PRS
218	19,303	8,278	P203	Sarawak	BN-PRS	BN-PRS
219	19,215	12,535	P206	Sarawak	BN-PBB	BN-PBB
220	18,845	9,928	P222	Sarawak	BN-PBB	BN-PBB
221	17,771	11,896	P207	Sarawak	BN-PBB	BN-PBB
222	15,791	9,943	P125	P. Jaya	BN-UMNO	BN-UMNO

BNで具体的にどこが議席を減らしたのかというと、MCAとサラワク州のSUPP(サラワク統一人民党)です。おもしろいことに、UMNOは議席はけっこう増えています、得票率は減っています。得票率は減ったにもかかわらず議席は増えるかたちになっています。

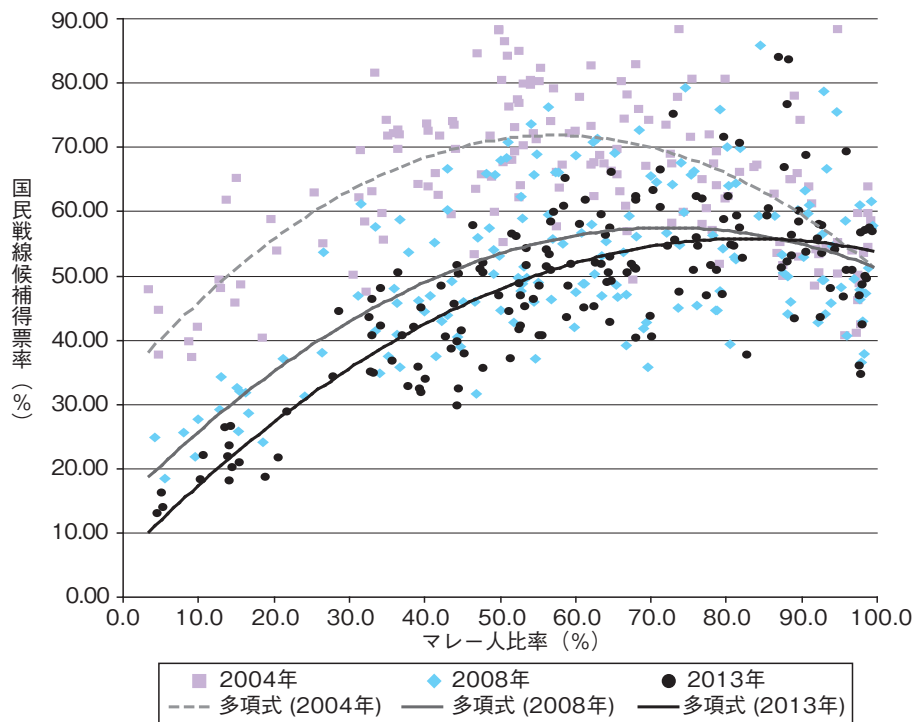
その他の政党と無所属とで1.75%をとりましたが、PRの3党だけで50%以上の票をとっています。今回、DAPが下院の第二党になりました。これは1969年にMCAと同数だったとき以来になります。

■一票の格差が大きく、 過大代表されている選挙区で強いBN

長期的なトレンドを見ると、議席の占有率と得票率との格差が大きいことは、いまに始まったことではあ

りません(資料18)。というよりも、現在はこれでも差が比較的小さいほうです。小選挙区制であり、一票の格差が大きく、かつ過大代表されている選挙区でBNが強いという理由が決定的なのですが、もう一つ付加的な理由として、これまでは無投票でBNが議席をとっている選挙区がかなりあったので、それも一因でした。それが今回は、サバ州、サラワク州も含めて、すべての議席で選挙が行なわれました。

一票の格差を少し詳しく見たものが資料19、20です。資料19が登録有権者数の多い選挙区の上位20区で、資料20が少ない選挙区の下位20区です。ざっと見ると、有権者数が10万人を超える選挙区が13区あります。ここでは今回だいたいPRが勝っていて、しか



資料21 与党連合(連盟党/国民戦線)の議席占有率と得票率の推移

も前回もPRがだいたい勝っています。

資料20を見ていただくと、登録有権者の数が2万人を切るような選挙区もけっこうあります。州別に見ると、プトラジャヤを除くと、下位20区はサバ州かサラワク州です。一方で、人数の多い選挙区の上位20区は半分以上がスランゴール州です。

左右のデータを比較して見ると、8万票近くを得てようやく議員になれた人がいる一方で、8,000票しかとっていないのに議員になった人がいることがわかります。

■「チャイニーズ津波」だったのか 都市と農村のディバイドか

今回、ナジブ・ラザク首相が「チャイニーズ津波(Chinese Tsunami)だ」と言ってかなり話題になりました。PR側は「チャイニーズ津波ではなく、都市と農村のディバイドなのだ」と言っています。実際はどうでしょうか。

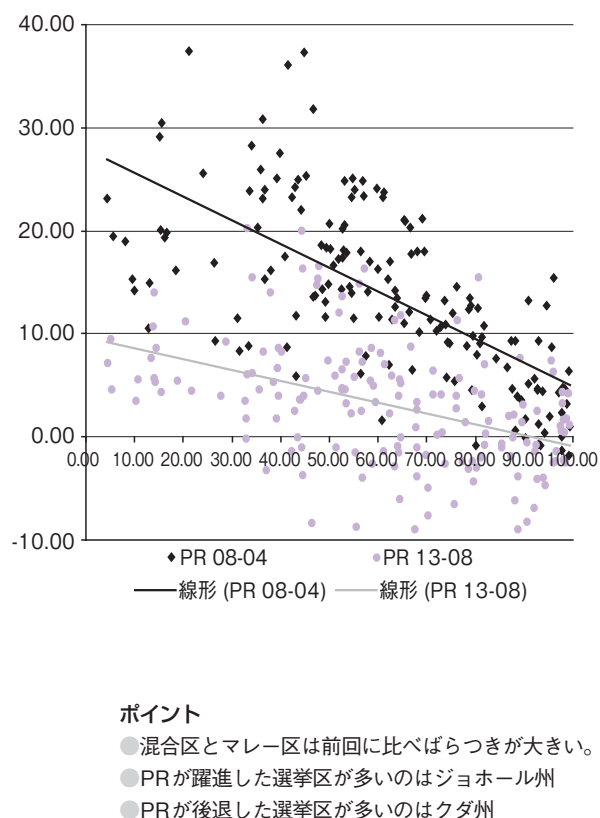
資料21をご覧ください。グレーの破線が2004年の選挙結果を代表する線で、グレーの実線が2008年、黒い実線が今回の2013年です。縦軸がBNの候補の得票率で、横軸に選挙区のマレー人の比率をとって関係性を見たものです。対象は半島部の選挙区だけです。

2004年は逆U字型で、これは過去50年間、大きな変化がなかったのですが、2008年にはっきりした傾向の変化があって、2013年はそれを少し進めたよう

なかたちになっています。ほぼ右肩上がりに、マレー人の有権者の比率が高い選挙区ほどBNの得票率が高いという傾向になってきています。その意味ではチャイニーズ津波と言うのが正しいのかなという印象もするのですが、よくよく見てみるとかならずしもそうでもないというのが次の資料22です。

資料22の左側の図は、先ほどとは従属変数が違って関係性が反対になるのですが、縦軸にとっているのはPRの得票率の差分です。選挙区ごとに、2013年の得票率から2008年の得票率を引いたものです。単位はパーセンテージ・ポイントです。前回と比べてPRの得票率が下がったところはゼロより下になりますし、上がったところはゼロより上になります。

マレー人の比率が40%以下の、かなり華人が多いと思われる選挙区の点は、ほぼ全部ゼロより上になっています。つまりPRの得票率が前回より上がっています。この点ではこのデータもチャイニーズ津波説を裏付けますが、右側の領域を見ると、得票率が上がった選挙区もあれば下がった選挙区もあって、かなりばらつきが大きくなっています。マレー人比率が50%以上の部分を平均すればPRの得票率は前回より下がっていますが、ばらつきが大きく、マレー人の比率が高い選挙区でもPRの得票率が伸びた選挙区もかなりあります。そこを考慮すると、かならずしもチャイニーズ津波とは言えません。



PR 13-08	州	区番	選挙区名称	マレー人比	有権者数
20.22	Johor	P163	Kulai	33.12	83,991
19.99	Selangor	P100	Pandan	44.36	83,857
16.47	Johor	P161	Pulai	47.88	100,490
16.27	Pahang	P89	Bentong	44.61	62,266
16.26	Johor	P148	Ayer Hitam	57.19	42,913
15.45	Johor	P162	Gelang Patah	34.27	106,726
15.39	Perlis	P2	Kangar	80.76	51,207
15.34	Johor	P159	Pasir Gudang	47.77	101,041
14.83	Johor	P141	Sekijang	56.13	43,066
14.64	Johor	P158	Terbau	47.42	90,482
13.99	Selangor	P104	Kelana Jaya	37.94	101,236
13.93	Selangor	P106	Petaling Jaya Utara	14.16	85,401
13.56	Johor	P150	Batu Pahat	52.67	88,272
11.95	Johor	P165	Tanjong Piai	52.11	51,875
11.78	Johor	P149	Sri Gading	64.69	44,816
11.27	Negri 9	P126	Jelebu	63.43	44,937
11.24	Penang	P41	Kepala Batas	76.32	51,635
11.20	Penang	P46	Batu Kawan	20.59	57,500
10.69	Penang	P48	Bukit Bendera	13.99	71,085
-6.05	Kedah	P14	Merbok	64.54	85,908
-6.17	Kedah	P11	Pendang	88.15	70,135
-6.57	Perak	P58	Bagan Serai	75.78	54,792
-6.94	Kedah	P7	Padang Terap	92.07	41,960
-7.65	NS	P131	Rembau	70.40	79,661
-8.32	Kedah	P4	Langkawi	90.64	37,536
-8.40	Perak	P72	Tapah	46.47	45,485
-8.74	Kedah	P17	Padang Serai	55.55	74,095
-8.98	Kedah	P18	Kulim-Bandar Baharu	67.57	60,910
-9.07	Kedah	P16	Baling	88.74	93,168

資料22 PR3党の得票率の増減(2008年実績との差分)とマレー人比率の関係(マレー半島部)

では、今回の特徴はなんなのか、地域別に見れば多少わかるかと思って見てみました。資料22の右側の表の薄いグレーの部分、PRが前回よりも10ポイント以上得票率を伸ばした選挙区は、ジョホール州がかなり多くなっています。半分以上がジョホール州です。これまでBNの伝統的基盤とよばれて、なぜそんなに強いのかいまいとつわからなかったジョホール州にPRがかなり入ってきたことが今回の選挙の一つの特徴ではないかと思います。2004年までのトレンドであれば、ジョホール州の民族混合区はBNにとって盤石の選挙区だったのですが、そのような選挙区で今回はBNが大幅に議席を減らしています。

スランゴール州の選挙区が比較的少ないのは、すでに前回の選挙でかなりPR支持に回ってしまったので、今回さらに上乗せする部分があり無かったということではないかと思います。

一方で、PRが5ポイント以上得票率を下げた選挙区はクダ州に多いです。あとで少しお話ししますが、2004年と2008年とを比較した場合に、2004年にはPRの得票率が低くBNの-marginが大きかったにもかかわらず、2008年に大逆転してPRが議席を得た

選挙区がクダ州とスランゴール州に多くありました。そういう選挙区は、今回の選挙でPR側から見ると、逆に取り返されてしまうリスクが高かった選挙区です。スランゴール州ではこれらの選挙区を保持することができたのですが、クダ州ではかなり取り返されています。

■ 政権交代が起こる可能性は高かったのか低かったのか

インターネットの情報だけ見てみると、今回は政権交代の見込みが高いように見えました。海外のメディアも、日本のメディアも含めて事前にかなり煽っていました。

資料23は、選挙前にJETRO(日本貿易振興機構)で開催したセミナーで使ったものです。惜敗率とは、勝った候補者の得票数を1としたときに、負けた候補がどのくらいまで迫っていたかを示す指標です。

2004年と2008年との変化を先に見ると、2004年の選挙でPRが勝った選挙区では、一つの例外を除いて2008年選挙でもPRが勝ちました。2004年の惜敗率が0.9以上だった選挙区での2008年のPRの勝率は7割5分、同じく2004年の惜敗率が0.6以上0.9未満

惜敗率	野党・人民連盟等*	与党・国民戦線
当選	82	140
0.9以上1.0未満	8	20
0.8以上0.9未満	19	20
0.7以上0.8未満	21	10
0.6以上0.7未満	18	10
0.5以上0.6未満	19	8
0.4以上0.5未満	19	7
0.3以上0.4未満	12	5
0.3未満	16	2
立候補見送り	8	0
合計	222	222

*野党候補のうち、最多得票を獲得した者の惜敗率。無所属含む。出所 ECM[2010]より算出。

もしも前回選挙と同水準の勝率なら…… 野党側2008年実績に30議席+αの積み増しは困難。政権交代の見込み薄い。

……すなわち政権交代。

資料23 そもそも、政権交代の見込みは高かったのか？

だった選挙区では2008年の勝率は約5割でした。

もし、今回も前回と同じように、2008年選挙で勝った議席をPRがすべて保持し、惜敗率が0.9以上の選挙区の7割5分、同じく前回惜敗率が0.6以上0.9未満の選挙区で5割の勝率をあげたらどうなるか。PRの議席数は117議席に及び、政権交代です。PR側の数字だけ見ていると、政権交代に現実味があるような気がしてきます。

ところが2008年の選挙では、PRがギリギリで勝っていた選挙区が多かったのです。今度はBNの2008年の惜敗率を見ると、0.9以上の選挙区が20区あり、0.8以上0.9未満の選挙区が20区ありました。つまり、勝ったPR候補に対して8割以上の票をBNがとっていた選挙区が40議席もあったので、PRが現有議席のすべてを保持するのはまず無理だろうと思われました。結果的に、やはりそうになりました。クダ州の議席をかなり取り返されて、クランタン州でも議席を失いました。トレンガヌ州でとったり、ジョホール州でとったりということが相殺されて、結局は半島部に関し

ては前回とまったく同じ議席数になりました。

前回と比べてPRが増やしたのはサバ州とサラワク州での7議席ですが、華人の多い選挙区に限られるというかたちでした。ですので、今回の選挙の傾向を「チャイニーズ津波」と呼んでも嘘ではない。でも、それだけではない票の動きもあったので、特徴を簡単に表現できる結果ではなかったように思います。

■ 2013年選挙はマレーシアに何をもらし何を变えたのか

最後に、印象論に基づいてコメントをしたいと思います。資料24は、何が変わったのか、私が個人的に気になったところを思いつくままにメモしたものです。

投票日前の出来事について見ると、PRがマニフェストを作りました。2008年のPRのときは、まだPASとPKRでBA(代替戦線)でした。DAPは2001年にBAを抜けたきりになっていました。3党としてのマニフェストは1999年のBAマニフェスト以来になります。今回のPRのマニフェストとBNのマニフェストは、経済政策とか社会政策については違いを見出すのが困難なくらい似ています。PRのマニフェストが先に出たので「BNが我々のマニフェストをまねした」とPR側が言っていましたが、当事者からそういう発言が出るほど似た内容だったということです。1999年のときは、政策面の違いがもっと明瞭でした。

最低賃金の話が先ほど出ましたが、1999年のBAのマニフェストに最低賃金導入の提案は入っていました。それと、所得税の非課税枠を拡大するなどの政策がありました。他にも階級的争点としては、当時のマハティール・モハマド(Mahathir Mohamad)首相の開発促進、メガ・プロジェクトに対する批判がありました。政府がメガ・プロジェクトをどんどん実施しているときで、「経済開発を優先するのか、すでにある程度積みあがった富を再分配する方向にするのか」

資料24 何が変わったのか？

投票日前	投票日後
●PRがマニフェストを作成(2008年はなし。1999年のBAマニフェスト以来)。 ●にもかかわらず、政策の違いは不明瞭。政府・与党の信頼性が争点。 ●BN、PRともに候補者選定が難航。 ●BN、PRともに、党決定に逆らって無所属として立候補する例が続出。UMNOは61人を除名。 ●選挙キャンペーン期間中に暴力事件が続発。ただし小規模。 ●選挙の公正性に対する、従来よりも高い関心(消えない？インク、「幽霊投票者」問題)。 ●政権交代への期待感を煽る報道(世論調査の歪曲など)。	●MCAが閣僚を出さず。独立期以来のパワーシェアリングの終焉。 ●相次ぐ民族差別発言と対抗言説。 ●選挙不正疑惑に対する大規模抗議行動(いまのところ政権打倒運動には至らず)。 ↓ ●いままでと同じではない。では、どう変わった(変わりつつある)と捉えればいいのか？ ●二大政党連合制の定着か？ それならば対立軸は何か？ それとも、従来どおりの政府党体制下の在野党による「永久革命」「善悪の政治」なのか？

という政策上の違いが明確だったような気がします。その後、BNの政策がPRの主張に近いものになっていき、違いがはっきりしなくなったのではないかという印象です。

それから、BN、PRともにですが、党の決定に逆らって無所属として選挙に出る例が続出しました。結果的に、UMNOは61名を除名することになりました。これは歴史的な出来事ではないかと思います。選挙がズルズルと延びたときも、ずっとそれと並行するかたちで候補者選びが難航していることをうかがわせる報道がぼつぼつ出続けていました。ですので、UMNOのなかのリーダーシップのあり方もこれまでとは違って、中央のグリップが効きづらくなってきているのではなかろうかと思われます。

■ 暴力事件の発生、公正性への期待と失望、歪曲された世論調査報道の問題

選挙キャンペーン期間中にこんなに暴力事件が起こったことはなかったのではないかと思います。爆発物の爆発が何度かありましたし、政党の活動拠点到火炎瓶を投げつけられたということがありました。幸いなことに規模は小さかったので大事件にはなりませんでしたが、キャンペーンがけっこう加熱した感がありました。

それから、選挙の公正性に対する従来よりも高い関心とともに、裏切られた感が非常にありました。政権交代への期待感を煽る報道があって、ともかくこんなに注目されたことはありませんでした。

政権交代への期待感ということで言えば、マレーシアではどう受け止められていたのかはわかりませんが、世論調査の報道は歪曲されていると私は思いました。マラヤ大学(UM)の行なった世論調査に関する報道は明らかに誤報です。

マラヤ大学の調査そのものを見ると、質問項目は「あなたは、若い人はナジブ・ラザクが首相にふさわしいと思っていますか」とか「あなたは、若い人はアンワル・イブラヒムが首相にふさわしいと思っていますか」と聞いていて、それに対する答えは「若い人はアンワル・イブラヒムが首相にふさわしいと思うだろう」と思う人の人数が、ナジブについて同様に考える人より若干多かったのですが、それがあたかも、「あなたはナジブを首相として支持しますか、アンワルを首相として支持しますか」という質問に対してナジブよりもアンワルという回答が多かったかのように報道されていました。

ムルデカ・センター(Merdeka Centre)の調査については、わずか1,600のサンプルで222の選挙区の当確がなぜわかるのかがわかりません。

世論調査の精度があやしかったり、報道の段階でゆがめられたりしたわけですが、であるにもかかわらず、いま、「選挙結果は世論調査と違う、不正だ」という話になっています。こういうところはもっと慎重に議論すべきでしょう。

■ パワー・シェアリングが崩壊し マレーシアは政治上の歴史的転換点を迎えた

投票後ですが、MCAが閣僚を出さないということは、マレーシアの政治史上、歴史的な転換点と言えるのではないかと思います。研究の世界での言説のあり方としては、パワー・シェアリングだからこそ政権交代しないことに一定の正当性が認められるというところがありました。少なくとも、紛争抑止のためにパワー・シェアリングを推奨する一部の論者はそう考えます。ですが、パワー・シェアリングが崩れた以上、そのような物言いはできなくなりました。

前回の選挙のあともそうでしたが、選挙結果を受けて、民族差別発言が政治家から相次いでいます。それに対する対抗言説がいろいろ言われるのですが、論争することで結果的に人びとの関心をエスニックな問題へと導いてしまうということがあるのではないかと思います。

それから、選挙不正疑惑に対する抗議行動が起こっていますが、これまでのブルシ(Bersih)のようなものと、今回の選挙後の話とでは意味がだいぶ違うと思います。「制度を変えてください」ということではなく、「不正のうえに成り立っている政権には正当性がない」という主張ですから。これは本質的には革命をめざす運動になるはずですが、一気に行くかと一瞬思ったのですが、現在はそうになっていません。

■ 権力を握る「悪い人」を在野の「善い人」が チェックする構図が成立するのではないか

思いつくままに喋ったのですが、その思いつくままに喋ったもろもろのことをどうやってまとめるのがいいかなと思っても、なかなか思いつかなくて、私としては、現在は何か結論めいたことを言う段階ではないと思います。いろいろな捉え方があるかなと思っています。

「二大政党連合制が定着した」と言おうと思えば、少なくとも過去5年間は続いていて、このあとも続いていきそうですから、もちろん言えます。でも、そ

のときにイメージするものとして、イギリスとかアメリカのような二大政党制があって、それに近いものになっているのかというと、かなり違うのではないかと思います。

一つは、二大政党制の場合には、政権交代するのが前提です。それがいま起こっていないだけではなく、現在のままであれば、次の選挙で起こるかもわからない。そう遠くない将来にBNないしUMNOが分裂して政権交代することがあるかもしれませんが、その後、安定した二つの党派的な集団が権力を交代で担うかたちに落ち着くのかというと、それはどうかと思います。

もしそうだとしたら、対立軸はなんなのか。現在のところなにをめぐって争っているかというと、PR側の主張にしたがえば、基本的には「善い人」と「悪い人」という軸だということになります。PR側が言っていることは、おおざっぱに言ってしまうと「あいつらは悪い」、「我々の税金を自分のポケットに入れている」という一点に尽きます。それは間違いなく正しいのですが、そのあまりにも正しいことばかりが政治の前面に出てきていて、それ以外のことがほぼ議論にならない状態になっている気がします。

かといって、政府をぶっ倒すという話にもなりません。善人が悪人を批判しつづける政治がずっとこのまま続くとなると、それは二大政党制というより、かつて藤原婦一さんが言った「政府党体制下における政府党と在野党」の関係として見るほうがいいと思います。権力を握り続けている悪い奴らに対して、在野の善い人たちが批判して、ある程度のチェック・アンド・バランス的なことを達成するという力関係あるいは役割分担のような構図です。

今後これが続いていくのだとすると、二大政党制のイメージとはちょっと違うかなという気がしています。

質疑・討論

参加者

伊賀司(神戸大学)／加藤剛(総合地球環境学研究所)／
金子芳樹(獨協大学)／塩崎悠輝(同志社大学)／
鈴木絢女(福岡女子大学)／鳥居高(明治大学)／
中村正志(JETROアジア)／西芳実(京都大学)／
山本博之(京都大学・司会)

山本博之(司会) 個別に深く議論したいこともあるかもしれませんが、選挙が終わって間もなく、得られる情報も限られている状況です。それぞれの情報を持ち寄って、どんなことが考えられるかを議論するのがこの研究会の趣旨ですので、一つのことについて深く議論するより、「こんな情報もある」、「こんなことを考えている」、あるいは「どう考えているかを確認したい」といういろいろな論点を出していただくような質疑応答や討論ができればと思います。

■ 登録者数と有権者数、投票率、ファースト・ボーターについての資料状況

塩崎悠輝 中村さんの報告で言われていた投票率が発表によって違うという話ですが、それはいつの時点での登録者数をもとにしていますか。今回の投票は2012年末までに登録している人までです。ただし、それ以降も登録作業自体は可能ですから、公示のときに何人登録しているのかと、2012年末までに登録していた人数とで違っていた可能性はないでしょうか。

中村正志 「gov.my」のサイトですから、選挙委員会が運営しているはずです。私の報告では、そこの数字を使いました。選挙で用いられた数字のはずです。

塩崎 投票できる人の数ということですか。

中村 そうだと思います。

金子芳樹 いまの登録者数と前回の選挙の登録者数はもちろん変わっていて、とくに投票率が10%近く上がったということがポイントだと思います。登録された有権者数が前回の2008年の選挙からどのくらい増えたかについては、ざっとでいいですが数字はどうでしょうか。

中村 正確には覚えていませんが、今回が一千三百数十万人です。前回は一千二百数十万人だったと思います。すみません、はっきり覚えていません。

金子 その増えた分の内訳を探る資料はありますか。どのあたりの年齢層が増えたとか。増えた分の中身を